第三者評価結果報告書【令和5年度】

評価対象事業所名称	五色橋学童クラブ
事業所所在地	〒108-0022 東京都港区海岸3-5-13 五色橋ビル2階

評価実施日	利用者調査実施日	2023年10月20日
	訪問調査日	2023年12月20日
評価員	保坂勇太	
	中野敬介	
	古畑朋子	

評価機関	株式会社プレパレーション	
	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階	
	認証番号 20-253	

【評価項目と評価手順】

・この外部評価は、厚生労働省より公表されている児童館版の「福祉サービス内容評価基準ガイドライン」で定めている評価項目と評価基準に沿って、評価シートを作成しています。

・評価の手順は「利用者（児童及び保護者）調査」、「職員自己評価」、「事業所による自己評価」を実施し、これらの結果を参照しながら、評価員による「訪問調査」を行い、評価を実施しています。

評価の手順は、利用者（児童及び保護者）調査、職員自己評価の結果を参照し、また、事業所による自己評価の後に、評価員による評価を行っています。

【判断基準】

・評価項目について、判断基準(a、b、cの3段階)に基づいた評価結果を表示する

・評価項目毎に第三者評価機関判定の理由等のコメントを記述する

【全体講評】

全体講評として、「特に良いと思われる点」「さらなる改善が望まれる点」を記載しています

児童館版評価報告書② 【共通評価基準】

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 港区芝浦学童クラブ

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		自己評価	第三者評価
1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
<p>理念等は「ミアヘルサグループの理念」に明記し、ホームページや指導員マニュアルなどに掲載し周知しています。基本方針は、港区の事業目的を踏まえ、企業理念をもとに児童育成方針として明記し掲げています。職員に対しては、理念や基本方針を掲載したミアヘルサグループ絆のクレドを配付し、入社時の研修、施設長会議、毎日の朝礼やミーティングの際に確認し、常に目に入るように室内にも掲示しています。保護者には、施設見学や入会説明会の際に児童育成事業の理念と五色橋学童クラブの基本方針の説明をし、施設内掲示でも周知を図っています。</p>			

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		自己評価	第三者評価
2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
<p>施設では、法人本社で毎月開催される本社会議を通して事業運営に関する情報を得て毎日のミーティングで職員に共有しています。また、学童クラブ事業連絡会、港南中高生プラザ主催の地域懇談会、隔月開催の芝浦港南地区会議、毎月の行政報告会を通じて自治体や地域、学校等の状況を把握しています。こうして得られた情報をもとに状況を確認し、施設では職員とミーティング内で分析と話し合いをおこないフィードバックしながら改善する取り組みがあります。</p>			
3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	a
<p>法人本社と施設では、使用状況報告書により利用人数の把握と毎月の事業費を把握し、課題を抽出して改善を図っています。また、実績を分析する事で、次年度の予算配分などにも活用する取り組みがあります。</p>			

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		自己評価	第三者評価
4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	a
<p>施設長は、児童育成基本方針、事業提案書をもとに3か年の事業運営提案書を区の指定様式に合わせて策定しています。計画は法人本社と施設の両方でそれぞれ作成しており、職員全員に対し回覧することで共有し、記名確認で共有漏れの無いように周知しています。また、事業運営提案書などの内容をもとに年間目標、毎月の運営目標、児童の目標などを策定して施設運営をおこなう仕組みがあります。</p>			
5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	a
<p>施設長は児童育成基本方針、事業提案書をもとに職員と話し合いながら前年度の反省を踏まえ事業計画を策定しています。事業計画書は非常勤職員を含め全職員に回覧し記名確認をおこない全体で共有しています。また、事業運営提案書などを踏まえ、児童アンケート、保護者アンケート、子ども会議、保護者会等での意見を参考に、年度末に次年度の各計画を決定しています。</p>			
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		自己評価	第三者評価
6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	a
<p>年間プログラムは保護者アンケート、保護者会、子ども会議、年度の反省を踏まえ年度末に次年度分を策定しています。月間プログラムは、前月の月初におこなう施設内の職員会議で策定しています。また、アンケートなどで収集した意見やプログラム記録を職員会議で振り返りながら、計画の見直しをおこなっています。職員にもアンケートを頻繁に実施し計画の改善の意見や反省、振り返りを含めて全体から集め、見直しをおこない、本社や区に報告をおこなっています。</p>			
7	② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a	a
<p>事業計画書は、全職員に配付するとともに、データとしてファイリングし、事務室でいつでも全ての計画を振り返ることができるようにしています。保護者には、年度始めに年間プログラム、クラブだよりにて月間プログラムを配付し、その中で解説をおこなっているほか、保護者会でのスライドを用いての説明や室内掲示でも周知しています。</p>			

児童館版評価報告書② 【共通評価基準】

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		自己評価	第三者評価
8	① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
	質の向上に向け、意見箱の設置のほか、児童アンケートを月2回、保護者アンケートを年4回実施し、保護者会や個人面談、日頃の会話、連絡ノートから利用者のニーズの把握をおこなっています。毎日の朝礼・終礼において全職員間で情報共有をおこなっているほか、月に数回実施しているミーティングやケースワークにおいて、課題と対応方法を共有化する仕組みがあります。また、プログラムでは、各担当が成果、課題などを報告書に記入し、全職員が確認してミーティングをおこない、次回プログラムに活かす取り組みがあります。		
9	② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a
	アンケートや面談、日頃の会話、意見箱などから得られた意見、要望、運営上の課題を全職員で共有し、毎日ミーティングをおこない職員と話し合い、迅速な対応と解決を心掛け改善策の検討、実行、再検討をおこなっています。連絡ノートや電話での個人的な意見に対する回答は、当日におこなうが、時間の掛かる事項に関しては、返答時期を提示し、利用者に不安を与えないようにしています。		

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		自己評価	第三者評価
10	① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
	法人本社は指導員マニュアルを策定し、管理者の役割と責任を明記し、毎年リーダー研修、サブリーダー研修を実施し周知しています。施設長会議では、グループ施設の各施設長が集まり、法人全体の方針や役割、方向性を確認する機会を設けています。また、施設内では日々のミーティングを通じて、自らの役割と責任を全職員に周知しています。		
11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	遵守すべき法令などを正しく理解するため、施設長会議、リーダーシップ研修、個人情報保護研修、安全管理研修、コンプライアンス研修などの法人本社研修を通じての教育、ミーティングや法人独自の人権チェックリストを用いて法令遵守の確認をおこなう取り組みがあります。また、内部通報制度を設け、全職員へ通報制度連絡カードを配付し、労務・その他に諸問題が起きた場合には速やかに通報することを全職員に呼びかける仕組みがあります。		
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		自己評価	第三者評価
12	① 児童館活動の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	a
	利用者本位の原則のもと、常に利用者満足度と安心かつ安全な運営に重点を置き、毎月のミーティングで計画立案、検討、決定をおこなっています。また、毎日の朝礼、終礼を通じて職員全体で課題を検討し、改善策を立て実行しています。毎日のミーティングの他、毎月の職員面談と年3回本部面談をおこなうことで全職員の意識及び指導の統一を図っています。また、参加した研修のフィードバックをおこない、実践し評価することで活動の質の向上を図っています。		
13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a
	日々の適切な人員配置をおこなうことで、安定した運営をおこなっています。イベント開催、休暇や欠勤での一時的な人員不足に対し、近隣の法人系列施設から応援対応し合う「ヘルプ制度」があり、人員配置の適正化だけでなく、人事交流や他施設を知る機会を得る取り組みとしても機能しています。また、サービスを低下させることなく、節電、節水、リサイクルなど運営コスト削減に努めています。消耗品等は管理表を作成し、必要数、在庫数を把握することで、無駄を排除する取り組みがあります。		

児童館版評価報告書② 【共通評価基準】

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		自己評価	第三者評価
14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
	採用活動は法人が主導しておこない、港区の仕様書に適用した資格およびスキルを有した人材を採用、配置しています。また、児童数や職員の資格を踏まえて毎年の配置を検討しています。人事管理については、職員の勤務状況調査および面談を定期的におこない、計画的に取り組んでいます。特に施設長と副施設長については情報共有を兼ねての研修を毎月実施しています。その他、新卒の職員には、4～6月にかけてペア制度を設け、担当職員と一緒に日々の振り返りや反省をおこない、基礎を定着させることで、一人ひとりのスキルアップに繋がっています。		
15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	施設では年に2度の人事考課を通じて、客観的かつ公正な職員待遇を実現化し、組織の活性化に役立てる仕組みがあります。的確な考課ができるよう考課者には法人本社研修の受講を義務付けています。自己申告書をもとに職員の意向や意見を反映できるようにし、併せて面談を複数回おこなうことで最終的な評価をおこなっています。また、毎月職員面談をおこない業務の評価や分析をしスキルアップに繋げる取り組みがあります。		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		自己評価	第三者評価
16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a
	働きやすい職場づくりに向け、毎月施設長による面談と、年3回本社担当者による本部面談を通じて、全職員の状況および意向を定期的に確認し、必要に応じた改善に取り組んでいます。有給休暇については、希望通り取得できるように配慮し、勤務シフトは前半月までに決定し、勤務時間は職員の希望や必要性に応じて柔軟にシフト調整しています。また、法人系列施設間での「ヘルプ」制度があり、急な欠勤やイベントに対応する仕組みがあります。職員の就業状況は施設長が把握管理しており、残業が発生しないよう計画的に業務を推進しています。		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		自己評価	第三者評価
17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
	施設では、職員個々のスキルやキャリアに応じた目標をもとに、毎月個人面談をおこない、達成度などを確認し支援する仕組みがあります。また、施設長が施設独自に作成したPDCA実行シートに年度始めに職員が記入をおこない、夏休み終わりに反省をおこなうなど、職員自身が自ら気づくこと、考えて改善することを促して育成に繋げる取り組みがあります。		
18	② 職員の研修に関する基本方針や計画が策定され、研修が実施されている。	a	a
	職員の教育・研修に関する基本方針について、事業提案書や「ミアヘルサグループの理念」に目指すべき職員像、求められる能力・知識や社員の心構えとして明示し周知しています。年間研修計画では本社研修計画と施設内研修計画を定め、都や区の主催する研修にも積極的に参加する取り組みがあります。研修後は職員会議や回覧でフィードバックをおこない、全職員で学びを共有しています。		
19	③ 職員一人ひとりの研修の機会が確保されている。	a	a
	施設では、個別のスキルに応じた研修計画のもとで、本社研修と施設内研修を実施しています。内容及び時期などの教育計画について年度始めに法人本社より全指導員に向けて周知しています。施設では本社研修や都、区の研修に一名以上が受けられるようにシフト調整をおこない、研修後は施設内でフィードバックをおこなうことで研修を受けられなかった職員も学びに繋がるようにする取り組みがあります。		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		自己評価	第三者評価
20	① 実習生等の児童館活動に関わる専門職等の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	a
	施設では、実習生などの福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について、法人のマニュアル、区のマニュアル、児童館運営のマニュアルなどをもとに受け入れ体制を整備する取り組みがあります。また、同様に小中学生の職場体験の受け入れ体制も整備しています。そのほか、夏休みに学生ボランティアの受け入れをおこなうなど、実習生や職場体験以外の希望者も広く受け入れをおこなう取り組みがあります。		

児童館版評価報告書② 【共通評価基準】

II-3 運営の透明性の確保

II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		自己評価	第三者評価
21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	a
	施設では透明性を確保するため、希望者に対し施設見学や毎年3月に入会説明会を実施しているほか、第三者評価の受審や苦情・相談の体制やその内容について公表しています。結果については、港区のホームページにて公表しています。また、苦情・相談については、施設内掲示、クラブだより、保護者会で改善・対応について公表し情報公開をおこなっています。クラブだよりや施設内掲示を通じて、プログラムの告知や活動内容などを周知しています。		
22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	a
	法人内の内部監査室による内部監査が年に1度実施され、施設の適正な運営の確認をおこなう組織的な仕組みがあります。また、各種業務に関するマニュアルの作成、業務分担表の作成をおこない、職員会議で職員に周知するとともに業務分担表は事務室に掲示しています。業務分担は全員が全ての業務を出来るようになってほしいという理由から3か月ごとに担当を交代しているため、交代月に全員が確認できるように職員会議や分担票の掲示で周知する仕組みがあります。		

II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		自己評価	第三者評価
23	① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
	施設では地域との交流を広げるため、地域の行事へ参加、港南子ども中高生プラザが主催している地域懇談会や行事等に参加し交流を図っています。芝浦港南地区総合支所主催の会議にも出席しているほか、法人の系列近隣施設などクラブ外の児童とも交流を図っています。プログラムとして、毎月地域の清掃活動をおこない、感謝の声をかけてもらうなど交流があります。また、児童の帰宅時間に合わせて、近隣の交差点などで交通安全指導をしています。また、近隣の公園でおこなわれる、みなと外遊びの会主催のプレーパーク事業にも参加し、地域との交流を広げています。		
24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a
	区の運営マニュアルをもとにボランティアの受け入れについて確認し、内容を説明したうえで、地域でボランティア活動をおこなっている方を講師として招き、保護者向け講座、児童向け工作講座などを実施する取り組みがあります。保護者向けに開催したおこづかい講座では、こどもにおこづかいをどれくらいあげたら良いかなど、保護者が迷ったり気になることについて質問や悩みに答え、こども向け講座ではボランティア講師を招いた一輪車講座などを実施しています。施設では講座のサポートをおこないながら、職員の学びにつなげる取り組みとなっています。		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		自己評価	第三者評価
25	① 児童館として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
	施設では、行政機関をはじめ、港区主催の連絡会や研修、所管課への業務報告で適切な連携を構築しています。また、学校とは連絡会や行事の見学、おたよりの交換などで緊密に情報共有をしています。消防署や警察署と連携し、交通安全指導や普通救命講習、エビペン講習会など安全確保の推進活動を実施しています。港南子ども中高生プラザ主催の地域懇談会、イベントに参加するなど、地域の様々な機関と連携しています。また、子育てに関する悩みについて、保護者に声をかけ面談をおこなったり、関連機関のパンフレットを渡したり紹介をおこない支援するなどの取り組みがあります。		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		自己評価	第三者評価
26	① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a	a
	施設では、地域の福祉ニーズなどを把握するため、毎月の行政報告や日常的な情報交換、芝浦港南地区運営会議への参加、港南子ども中高生プラザ主催の地域懇談会への参加、保護者との個人面談や保護者会、アンケートを通してなど、様々な方法で地域の福祉ニーズの確認と把握をおこなっています。得られた情報は職員会議やミーティング、回覧で職員と共有し課題を抽出して話し合いをおこなう取り組みがあります。		
27	② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a
	施設では、港南子ども中高生プラザ主催の地域懇談会、保護者会などで得た情報やニーズなどをもとに、地域活動に積極的に参加したり、学童クラブのプログラムにも反映するなどニーズを柔軟に取り入れ反映する取り組みがあります。また、職員は児童の帰宅時間に合わせて、横断旗を使い近隣の交差点など街頭での交通安全指導、送迎をおこない地域の安全確保を推進し地域貢献する取り組みがあります。また、こどもの意見から始めた海岸クリーン隊というプログラムを活動に組み込み、毎月地域の清掃活動をおこなっています。		

児童館版評価報告書② 【共通評価基準】

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		自己評価	第三者評価
28	① 利用者を尊重した児童館活動について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a
施設では、法人本社研修や施設内研修、勉強会、職員会議やミーティング等の場で利用者を尊重した福祉サービス提供について職員間で話し合いをおこない、法人のサービス理念である「ホスピタリティ・マインド」を職員間で共通認識とその理解浸透に取り組んでいます。また、マニュアル整備や朝礼・終礼・毎月ミーティングで組織としての方向性を共有し、サービス向上に努める組織的な仕組みがあります。			
29	② 利用者のプライバシー保護に配慮した児童館活動が行われている。	a	a
施設では、個人情報保護やプライバシー保護に関する規程やマニュアルを設置し、定期的に整備をおこなっています。利用者との誓約書の取り交わしのほか、全職員への入社時、退職時の個人情報保護規程等遵守の誓約書を義務付ける仕組みがあります。また、パソコンのパスワード設定やスクリーンセーバーの起動などをおこない、情報管理を徹底するほか、書類については鍵付きキャビネットへの保管や持ち出し禁止、シュレッダー破棄等を徹底した管理をおこなっています。法人がプライバシーマーク制度を取得しており、全職員への研修、テスト、内部監査のほか、プライバシーマーク更新のための外部監査も実施しています。			
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		自己評価	第三者評価
30	① 利用希望者に対して児童館を利用するために必要な情報を積極的に提供している。	a	a
施設では、利用希望者に対して放課後児童クラブ選択に必要な情報を港区のホームページに掲載しているほか、クラブだよりや室内掲示を通じて、プログラムの告知や活動内容の周知を図り、希望者の見学には常時対応しています。毎年3月には、新入予定者への説明会を開催し説明をおこなっています。			
31	② 児童館活動の開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a	a
施設では、放課後児童クラブの利用開始・変更にあたり保護者に利用案内を配付したうえで説明会や面談を実施し、本人に必ず口頭で直接説明をおこない内容の確認とその同意を得ています。また、個人情報や写真掲載等についても説明をおこない同意書に署名を得ています。			
32	③ 評価外		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		自己評価	第三者評価
33	① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	a
施設では、日頃から積極的に児童や保護者と積極的にコミュニケーションを取るよう心がけ意向を把握しているほか、保護者会、面談、子ども会議やアンケートを通じて利用者の意向を収集し改善課題の発見と見直しに努めています。また、玄関に児童用と保護者用二つのご意見箱を設置し、利用者のより多くの声を反映できるよう努める仕組みがあります。利用者の都合に合わせて連絡ノートや電話、ご意見箱など伝達手段を選択できるよう入会時のしおりや手紙を用いて周知しています。また、面談コーナーを設け、相談内容の守秘管理を徹底しています。			

児童館版評価報告書② 【共通評価基準】

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		自己評価	第三者評価
34	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
	施設では、苦情解決の仕組みについて、指導員マニュアルにもとづき適切に対応し本社担当への報告を徹底し、担当立ち会いのもとで利用者の立場に立った解決を図っています。また、状況に応じて芝浦港南地区総合支所、港区子ども若者支援課、学校等関係機関にご意見を伺い、客観性を確保しています。意見の内容によっては、区の様式に沿って意見や施設としての対応、苦情内容の解決までの一連の経緯を記載した「クレーム対応報告書」を区に提出し、法人本部には社内ツールアプリで報告をおこない記録に残す仕組みがあります。		
35	② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a	a
	児童や保護者が相談や意見を述べやすいよう、児童アンケートを月2回、保護者アンケートを年4回実施、保護者会や個人面談、お迎え時など日頃の会話、連絡ノート、電話連絡、意見箱の設置など、利用者の都合に合わせた伝達手段を選択できるよう説明し周知しています。職員は活発なコミュニケーションを心がけ、トラブルがなくても声がけをしたり、良かったことなどを伝えるなど積極的に関係性を築く取り組みがあります。利用者の意向を聞き、ミーティングや職員会議で取り上げ、課題の発見、改善をおこない、サービスの向上に繋げています。また、相談室を設け、ゆっくりと話せる環境を整備し、相談内容の守秘管理を徹底しています。		
36	③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a
	施設では、利用者からの相談や意見に対して、真摯に受けとめ、迅速にできる限り当日中に対応する取り組みがあります。また、苦情解決のマニュアルをもとに全職員が適切に対応できるよう毎日のミーティングやノートで情報共有をおこなっています。また、法人本社で実施する保護者対応研修を受け迅速に対応ができるよう努める組織的な仕組みがあります。		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		自己評価	第三者評価
37	① 安心・安全な児童館活動の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a
	施設では、指導員マニュアル、安全管理マニュアル、衛生管理マニュアル、感染症対策マニュアルなど各種マニュアルおよび記録、チェックリストにもとづき、安全管理研修や施設内研修、OJTなどを頻繁におこない安全確保に努める取り組みがあります。また、事務室内に緊急時の対応フローを掲示し、万が一の際に全職員が適切な対応ができるよう環境を整えています。また、本社会議やヒヤリハットの事例の共有についても、施設内を想定して検証し、リスク管理をおこなっています。他施設での事件や事故の報道時には、ミーティングで自施設に置き換えてグループディスカッションをおこない対応を検討する取り組みがあります。		
38	② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
	施設では、職員、児童の手洗い、手指消毒や職員はマスク着用と検温、体調管理表の記入をおこなっています。感染症発生時には「危機発生時の緊急連絡網」第一報緊急報告の基本フローに沿って可能な限り速やかに芝浦港南地区総合支所に報告し、保護者への周知が必要な場合は緊急メール配信サービスを用いて情報提供をおこなう体制を整備しています。		
39	③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a
	防災年間計画表にて策定している災害や危機の想定を変え、狙いを明確にした避難訓練を毎月実施し、警察署と連携しての不審者対応訓練、こどもとともに非常時の安全確保や交通安全指導、消防署と連携しての火災及び地震時の対応訓練、普通救命講習、エピペン講習会なども実施しています。事故や災害時に備え、児童票や利用調査票でかかりつけ医や緊急連絡先、引き取り代理人などについても確認しています。マニュアルの定期的な見直し、安全管理、緊急時の対応等の研修をおこない、全職員で対応方法の共有化を図る取り組みがあります。また、緊急時の対応方法を全利用者に配付し、担当部署の設置および連絡体制の整備をおこなっています。		

児童館版評価報告書② 【共通評価基準】

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		自己評価	第三者評価
40	① 児童館活動について標準的な実施方法が文書化され活動が提供されている。	a	a
施設では、利用案内等で入退室管理の方法や活動の実施方法などについて明文化し、それにもとづいたサービスを提供しています。職員に対し、標準的な実施方法を指導員マニュアルや安全管理マニュアル、衛生管理マニュアルなど法人本社や区が作成した各種マニュアルにもとづき、放課後児童支援員研修の内容を踏まえ、入職後に法人本社及び施設の両方で入社時研修をおこない周知しています。			
41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
さまざまな業務や対応の実施方法について、職員に対し頻りにアンケートで意見や提案を収集しているほか、日々のミーティングを通じて職員と話し合いながら見直しをおこなっています。改善内容に応じて、法人本社や区などの関係機関への確認をおこない、意見や提案を積極的に反映するよう努めています。その反映をマニュアル変更や記録として残し、後での検証や課題抽出と改善策の実施を含む継続した取り組みがあります。			
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		自己評価	第三者評価
42	① 個々に支援が必要な利用者に対する個別の援助計画を適切に策定している。	a	a
施設では、入会前に生活状況調査書をもとに、こどもの状況を確認し、合理的配慮のもと、こどもや保護者が安心して利用できるよう受け入れ体制を整えています。また、受け入れに際して、芝浦港南地区総合支所とも相談して、できること・できないことを検討し、必要なことを保護者へ伝える取り組みがあります。			
43	② 定期的に育成支援の計画の評価・見直しを行っている。	a	a
施設では、隔月でおこなう定期的な計画検討会議を通じて、評価および見直しをおこなっています。全職員でミーティングをおこない、個別支援計画に変更があった際は共有しています。参加できなかった職員に対しては、議事録などを回覧し記名確認することで全体周知の徹底を図っています。			
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		自己評価	第三者評価
44	① 児童館活動の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a	a
施設では、職員間で連携し児童観察をよくおこなったうえで適切な援助に努める取り組みがあります。特に、情緒の安定、基本的な生活習慣や社会生活において必要なことを念頭に置き、指導にあたるよう共通認識を持って取り組んでいます。個々の児童のその日の状況を連絡ノートで把握するとともに、業務日誌に特に気がついたことを記載し、職員間で共有化したうえで指導しています。特に注意すべき事柄には、ミーティングやケースワークで取り上げて対応するようにしています。個人情報に細心の注意を払い、保護者や学校との情報共有もおこなうことで丁寧な援助を心掛ける取り組みがあります。			
45	② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	a
施設では、個人情報保護方針にもとづき、個人情報の保護や記録の管理体制を確立しています。個人情報に関する記録類は施錠可能なキャビネットで保管し、パソコンにはパスワード設定をしています。入退室管理簿でチェックをおこない、帰宅時には必ず施錠し、厳重に管理する仕組みがあります。職員は個人情報取り扱いに関する研修を受講し、第三者への情報開示や漏洩、不正使用などを防ぐ誓約書を交わしています。さらに、個人情報保護マニュアルや就業規則を整備し、個人情報の保護と守秘義務について具体的に定め、ミーティングや掲示物で日常的に注意喚起をおこない、利用者に関する記録の管理体制を確立しています。			

児童館版評価報告書③ 【内容評価基準】

A 児童館の活動に関する事項

A-1 児童館の施設特性		自己評価	第三者評価
A1	(1) 施設の基本特性が児童館の理念と目的に基づいて設定されている。	a	a
	事業所は、こどもたちが安心して学童クラブで過ごせるように、できる限り禁止事項を減らし、自己決定を尊重し活動を強制することのないようにしています。プログラムは、自己肯定感、コミュニケーション能力、チャレンジ意欲の育成をテーマとして、知・徳・体・食のバランスを考えさまざまな活動に取り組んでいます。また、児童が主体となって企画するお楽しみ会、おまつりも実施しています。日常の活動は、児童が自主性・主体性を育めるよう、プログラム、自由遊びを中心に職員がサポートしています。		
A2	(2) 児童館の特性でもある、拠点性、多機能性、地域性を発揮している。		
	該当なし		
A3	(3) 子どもの権利を保障するための取組が徹底されている。	a	a
	職員は、法人が作成した指導員マニュアル【児童指導員の役割】や児童指導員としての基本的対応【児童指導員の基本的事項】を共通認識としています。また、「子どもの権利条約」の4つの原則や権利を中心に、ミーティング等を通して、こどもの権利を共有しています。また、全職員が「子どもの権利条約」に関する研修を受講し、人権チェックを年3回おこない定期的にこどもの権利を確認し理解を深めています。		
A-2 遊びによる子どもの育成		自己評価	第三者評価
A4	(1) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている	a	a
	職員間で連携し、一人ひとりの個性を大切に援助をしています。情緒の安定、基本的な生活習慣や社会生活において必要なことを念頭に置き、指導にあたっています。個々の児童のその日の状況を連絡ノートで把握すると共に、特に気がついたことを業務日誌に記載し指導しています。特に注意すべき事柄には、ミーティングやケースワークで取り上げて対応するようにしています。		
A5	(2) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択できるようにしている。	a	a
	安全面に配慮した上で、活動目的によって、スペースを分けて活動することで、自発的に宿題や読書、創作活動や遊びができる空間作りをしています。安全面では、施設でのルールを必要な場所に掲示し、こどもたち自身が気づけるように配慮しています。活動の環境は、身体を使って遊びたいこどもにはプレイルームを開放し、卓球や一輪車、ボール遊びなどができるようにしているほか、座って遊ぶ場所には机を設置して、落ち着いて遊べる空間の整備に努めています。		
A6	(3) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している	a	a
	1年生から6年生まで学年関係なく、一緒に遊ぶ姿が見られ、上級生がリーダーシップを発揮することで、下級生の目標となっています。こども同士の関わりや集団になった際の課題などを把握し、常時サポートしています。また、トラブルの際などは記録をした上で職員間で共有し、より良い集団形成に繋がるように努めています。月のプログラムとして、「ごしキッズタイム」と称した全年齢で取り組む活動を取り入れ、月に1回写真を掲示して活動の内容を保護者にも知らせています。		

児童館版評価報告書③ 【内容評価基準】

A-4 子どもの意見の尊重		自己評価	第三者評価
A7	(1) 子どもが安全に安心して過ごせる居場所になるような環境づくりや援助を行っている。	a	a
	遊びのルールを決め、こども会議、帰りの会、掲示などを通じて分かりやすく周知しています。新入生歓迎会時には、学童クラブのルールを〇×クイズ形式で教えたり、各部屋の使い方、部屋移動する際の職員への声掛けなどの指導もおこなっています。		
A8	(2) 中・高校生世代の利用に対する援助がある。		
	該当なし		
A-4 子どもの意見の尊重		自己評価	第三者評価
A9	(1) 子どもの年齢及び発達に応じて子どもの意見を尊重している。	a	a
	コミュニケーションを徹底することで、児童の気持ちを汲み取り、トラブル時などのネガティブな気持ちでも適切な言葉で表現することができるように、職員が気持ちを受け止めながら言語化を支援しています。また、日常的な遊びやプログラムなども児童の意見を聞きながら進めています。		
A10	(2) 子どもの意見が運営や活動に反映されている。	a	a
	こども会議の開催や「ご意見箱」の設置を通して、こどもたちの意見が施設の運営に反映できるよう努めています。月2回の児童アンケートを通して収集した意見をもとにプログラムの内容に反映したり、リクエストおやつを取り入れたりしています。また、こども会議では、こどもたちが日常的に過ごす部屋の使い方や、長期休みの際にやりたいゲームなどについて話し合い、こどもたち主体の運営となるように心がけています。		
A-5 配慮を必要とする子どもへの対応		自己評価	第三者評価
A11	① 配慮を必要とする子どもへの対応を行っている	a	a
	障がい児には、入会時に「生活状況調査書」を提出してもらい、事前にこどもの状況の把握に努めています。本社特別支援児アドバイザー、港区の巡回指導、研修などにも参加し、より良い支援に取り組んでいます。また、全職員でミーティングをおこない、障がいの有無に関わらず、全てのこどもたちを支援できるようにしています。保護者には、必要に応じて関係機関を紹介するなどし、保護者への支援もおこなっています。		
A12	② 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取って支援を行っている。	a	a
	必要に応じて、連絡ノート、電話、迎え時に直接連絡をしています。また、必ず記録をとり職員間で共有をしています。個別の支援計画などの記録は、港区の書式を使用して作成し、特記事項などを記載して必要に応じて港区にも提出し共有を図っています。		

児童館版評価報告書③ 【内容評価基準】

A-6 子育て支援の実施		自己評価	第三者評価
A13	(1) 保護者の子育て支援を行っている。	a	a
	必要に応じて面談を設定し、子育てに関する相談を受けたり、関係機関につないだりしています。また、保護者会時など自由に交流できる場を設定しています。また、保護者と職員の日々のコミュニケーションを大切に、送迎時のやり取りのほか、必要であれば電話を活用して伝達事項を伝えています。保護者には、年4回程度アンケートもおこない幅広く意見や要望を収集し、把握に努めています。		
A14	(2) 保護者と協力して乳幼児支援を行っている。		
	学童クラブのため実施なし		
A-7 地域の健全育成の環境づくり		自己評価	第三者評価
A15	(1) 地域の健全育成の環境づくりに取り組んでいる。	a	a
	事業所は、地域の行事への参加、港南子ども中高生プラザが主催している地域懇談会や行事等に参加し、交流を図っています。放課GO→クラブこうなん、しばうら、芝浦学童クラブなどクラブ外の児童とも交流を図っています。プログラムとして、地域の清掃活動もおこなっています。また、児童の帰宅時間に合わせて、横断旗を使い近隣の交差点などで交通安全指導をしています。また、近隣の公園でおこなわれる、みなそとの会（みなと外遊びの会）主催のプレーパーク事業にも参加し、地域との交流を広げています。		
A-8 ボランティア等の育成と活動支援		自己評価	第三者評価
A16	(1) 子どもを含めたボランティア等の育成と活動支援を適切に行っている。	a	a
	事業所では、こどもたちからの提案をきっかけに海岸クリーン隊というプログラムを活動に組み込み、地域の清掃活動をおこなっています。毎月の清掃活動を通して、こどもたちの自分たちが住んでいる地域を大切にしたいという気持ちとともに、自ら街をきれいにするボランティア精神が養われています。また、ボランティアの受け入れに関しては、港区のマニュアルにもとづいて連携している学校などからの要請があれば受け入れるようにしています。今後は、一輪車の講師としてボランティアを受け入れる予定です。		
A-9 子どもの安全対策・衛生管理		自己評価	第三者評価
A17	(1) 子どもの安全対策・衛生管理を行っている。	a	a
	緊急時の対応方法を全利用者に配布し、担当部署の設置および連絡体制の整備をおこなっています。また、マニュアルの定期的な見直しをおこない、安全管理、緊急時の対応などの研修をおこない、全職員で対応方法の共有化を図っています。室内にはケースごとの対応と連絡体制が掲示してあり、職員が必要に応じて確認をしています。活動場所に必ず職員が配置されるよう、配置表を作成し、トランシーバーを使い連絡が取れる体制を取っています。毎月の避難訓練の実施、警察署と連携しての不審者対応訓練、交通安全指導、消防署と連携しての火災及び地震時の対応訓練、普通救命講習、アドレナリン自己注射薬講習会も実施しています。		
A-10 学校・地域との連携		自己評価	第三者評価
A18	(1) 学校・地域との連携を行っている。	a	a
	行政機関をはじめ、学校、保育園、港南子ども中高生プラザ、各学童クラブなどと緊密に連携しています。登室時や帰宅時にはこどもたちにとっての危険が存在しており、街頭での安全指導、および送迎することが、安全確保の大きな力となると考え、地域や警察等とも連携して安全確保の推進をしています。また、地域との関わりを深めるため、地域の方や保護者に向けて、「おこづかい講座」を実施して、子育ての支援につなげています。		

児童館版評価報告書③ 【内容評価基準】

A19	(2) 運営協議会等が設置され、機能している。		
	該当なし		
A-1 1	【選択項目】放課後児童クラブの実施	自己評価	第三者評価
A20	(1) 放課後児童クラブを児童館の持つ機能を生かして運営している。		
	学童クラブのため実施なし		

B 大型児童館の活動に関する事項（大型児童館用付加項目）

B1	(1) 大型児童館としての施設・設備や人材を有効に活用している。		
	学童クラブのため実施なし		
B2	(2) 県内児童館の連絡調整と支援を行っている。		
	学童クラブのため実施なし		
B3	(3) 児童の健全育成に関する関係機関及び地域団体等との連絡・協議を行っている。		
	学童クラブのため実施なし		
B4	(4) 県内児童館で活用できる各種遊びのプログラムの開発と普及を行っている。		
	学童クラブのため実施なし		
B5	(5) 児童館のない地域等に出向き、遊びの提供、子育てや健全育成に関する啓発に取り組んでいる。		
	学童クラブのため実施なし		

児童館版評価報告書④

【総評】

NO.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちが安心して過ごせる環境を整備し、安心安全で笑顔あふれる運営に努めています
	内容	事業所は、子どもたちの情緒の安定とともに、子どもの安心を第一に考え気持ちに寄り添った運営を心がけています。禁止事項をできるだけ少なくし、必要最低限のルールの中、子どもが安心して過ごせる環境を整備しています。職員は月3回程度研修に取り組み、支援が必要な子どもへの理解を含めてスキルアップを図っています。また、子どもの安全を重視し、毎日子どもの帰宅時には数方向に分かれ見送りをし、安心して帰宅できるように支援しています。子どもたちが「ニコニコ過ごせる」空間づくりを大切に考え、日々の運営にあたっています。
2	タイトル	児童と保護者との積極的なコミュニケーションを重視した活発な取り組みがあります
	内容	施設では、児童と保護者、職員などコミュニケーションを重視し活発におこなう取り組みがあります。児童が自主性や主体性を育めるよう、やりたいことやルールを子どもたち自身で話し合い決める子ども会議を月に複数回開催しているほか、児童アンケートを月2回おこない希望を「ごしキッズプログラムタイム」にも取り入れています。保護者アンケートは年4回実施し、保護者会や個人面談のほか、積極的に声がけをして関係性を構築する取り組みがあります。職員とはミーティングを毎日おこない、毎月施設長との面談を実施し、職員アンケートも頻繁におこないコミュニケーションを密に取っています。児童や保護者とのコミュニケーション、職員間の連携、本社との連携、自治体、地域との連携も重視し積極的に関わる組織的な体制があります。
NO.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現在取り組んでいる地域交流に加え、地域懇談会を起点に地域とのつながりを深め、連携を強化していくことに期待します
	内容	事業所は、地域資源を活用してみなそとの会(みなと外遊びの会)が主催しているプレーパークに参加し、地域との交流を深めているほか、一輪車の講師ボランティアの受け入れも予定しています。一方で、事業所の立地は港南地区の海に近い大通り沿いに位置しているため、地域住民や地域の商店などとの関わりは少ない状態になっています。今後は、地域懇談会に参加して地域のさまざまな関係機関とのつながりを深め、少しずつ関係を構築しながら地域との連携を強化していくことに期待します。
2	タイトル	職員一人ひとりの積極性をより伸ばせるよう成長のサポートを組織的におこなうことに期待します
	内容	施設長は、職員の積極性をより伸ばしていくことを課題として捉えています。職員は、子どもの主体性を大切に、子どもの気持ちを受け止めて見守る姿勢はできていますが、受け身ではなく、子どもに寄り添い、こうしてみたらという提案型のスキルアップへの取り組みをさらに強化していく計画があります。現在も法人本社研修や施設内研修のほかに、目標シートや施設長作成のPDCA実行シートを活用した自己研鑽、職員アンケートで決めた月目標の達成に向け、職員間での声かけをお互いにするなど職員の成長のサポートをおこない積極性を伸ばすきっかけづくりに取り組んでいます。今後はさらに職員の積極性のスキルアップ強化に取り組む予定があり組織的な支援に期待します。